

平成28年度「校外へ公開する研究授業」実施報告書

| 学校名 | 長野西高等学校 | | 全日制課程 | | | | |
|---|--|-----|-------|-----|----|------------|-----|
| 実施年月日(曜) | 平成 29年 1月 31日 (火) | | | | | | |
| 授業時間(時限) | 9時 40分～ 10時 35分 (第2時限) | | | | | | |
| 公開学年・公開教科 (公開授業名) | 1年1・2組 ハ講座 英語表現I 「関係詞」 | | | | | | |
| 授業者名 | 黒岩 周平 教諭 ALT | | | | | | |
| 形態 | 初任研・10年研・教育課程研究委員会・ 小中高算数・数学研究会・その他(第7回アップスキル研修会「中高連携の推進」) | | | | | | |
| 授業公開 対象者 | 校外の先生方、県教委事務局の先生方 | | | | | | |
| 授業参観者数 | 校内 | | 校外 | | | その他 () | 合計 |
| | 教職員 | 保護者 | 教職員 | その他 | 生徒 | | |
| | 9人 | 人 | 17人 | 5人 | 人 | 人 | 31人 |
| 校外の人々の参観 にあたって特に配 慮した取組 | ・駐車場の確保、受付・校内案内図・控室の準備、資料制作 | | | | | | |
| 授業研究会の 時間・参加者 の範囲・参加 人数・参加者 から出された 主な感想・意 見 | 10時 45分～ 12時 | | | | | | |
| | <p>【授業者より】</p> <p>(1)3年間の連携の集大成を授業にもってきた。Today's Goalの設定や振り返りシートの活用により、生徒の目標がはっきりしたり、躓きについてやり取りができるようになった。</p> <p>(2)グループ学習や教え合い、学び合いを通じて、主体的で対話的な深い学びにつなげたいと考えた。関係詞を用いた世界遺産の説明文作成では自己表現に繋げられるよう、挑戦した。時間配分の関係で、最後のプレゼンテーションがやや不十分だった。</p> <p>【参加された先生方のご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終テーマ設定が興味を引く内容であったため、生徒たちの文章作成へのモチベーションがあがった。 ・文と文をつなぐ材料として世界遺産はおもしろかった。グループ学習は4人だとペアができてしまい難しいのではないかと。 ・グループワークになかなか関われない生徒が見受けられた。元気な女子が主導権を持ち、男子は受け身的に感じられた。 ・全体としてもう少しテンポ感、スピード感を持たせても良かったのではないかと。 ・最後のプレゼンテーションについては、達成感が持てるような工夫が必要だと感じた。 ・スマホの画像を用いた表現活動などを導入しても良いのではないかと。タイムマネジメント不足についてはキッチンタイマーを用いるなどの工夫がある。 <p>【大学の先生方より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い、共同学習を小中高の連携に発展させたい。言語の論理構造を中学校の延長線上に高校に存在するよう学ばせたい。 ・言語活動には「何のために行うのか」という裏付けが重要。世界遺産を題材にしたのは正解。それでもなお、なぜ関係詞が必要かという理由が必要。関係詞を使うことで、表現に特殊な意味が生じ、難しい面もある。 ・自己表現の自由さを求めたい。グループ学習の中で、お互いの人間として新たな発見があると面白い。表現活動というのは互いの理解を深めることであり、それこそが対話的な学びではないかと。グループダイナミックの追及を。 <p>【県教委指導主事の先生より】</p> <p>ライブ感のある授業の中で、言葉は生き物であると痛感。今回の成果をどのように引き継いで、ALを進展させていくか期待。</p> | | | | | | |
| 成果と課題 | 3年間の西部中学との連携の中で行われてきた成果としての位置づけを行った。互いの授業の見学、出前授業などにより、中学校での手法を高校の授業にも導入して、意欲を高めたり、目的を明確化させることは、中学校の発展形として生徒には受け入れられやすいとともに、評価の面でも成果が上がっている。この活動を全県へ拡大させていくことが今後の取り組みの目標となるであろうと考える。 | | | | | | |